

**2023年3月期
第3四半期
決算概要**

長瀬産業株式会社

2023年2月8日

月夜は星のふし
景色の

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ セグメント 営業利益概況	P7~P11
■ 主要製造子会社の業績概要	P12
■ 連結貸借対照表	P13
■ 通期業績見通し	P14~P15
■ 株主還元状況	P16

連結損益計算書

▶ 売上総利益

- ・一部の製造子会社における収益性の悪化等により売上総利益率は低下したものの、全体としては増益

▶ 営業利益

- ・物流コストの上昇や活動量増加に伴い販売費及び一般管理費が増加したこともあり、減益

▶ 四半期純利益

- ・支払利息の増加等による経常利益の減益を受け、四半期純利益も減益

(単位:億円)

	21/12	22/12	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	5,741	6,956	+ 1,215	121%	—	—
売上総利益	1,041	1,184	+ 143	114%	1,590	75%
<利益率>	18.1%	17.0%	△1.1ppt	—	—	—
販売費及び一般管理費	759	910	+ 150	120%	1,210	—
営業利益	281	274	△ 7	97%	380	72%
経常利益	301	274	△ 27	91%	390	70%
親会社株主に帰属する四半期純利益	222	200	△ 21	90%	285	70%
US\$レート (期中平均)	@ 111.1	@ 136.5	@ 25.4 円安		@140.0	
RMBレート (期中平均)	@ 17.3	@ 19.9	@ 2.6 円安		@20.0	

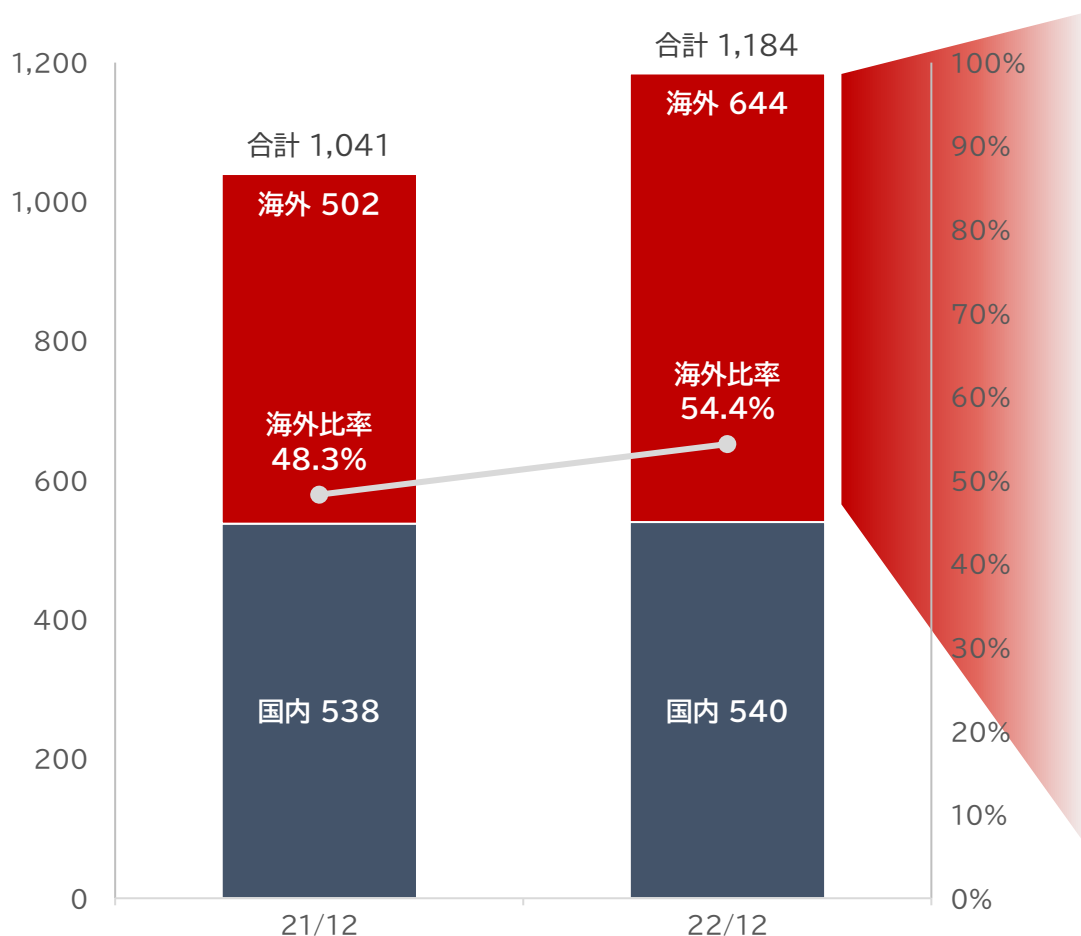
※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 21/12 △1,817億円 22/12 △2,038億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+96億円 【営業利益】+26億円

所在地別 売上総利益

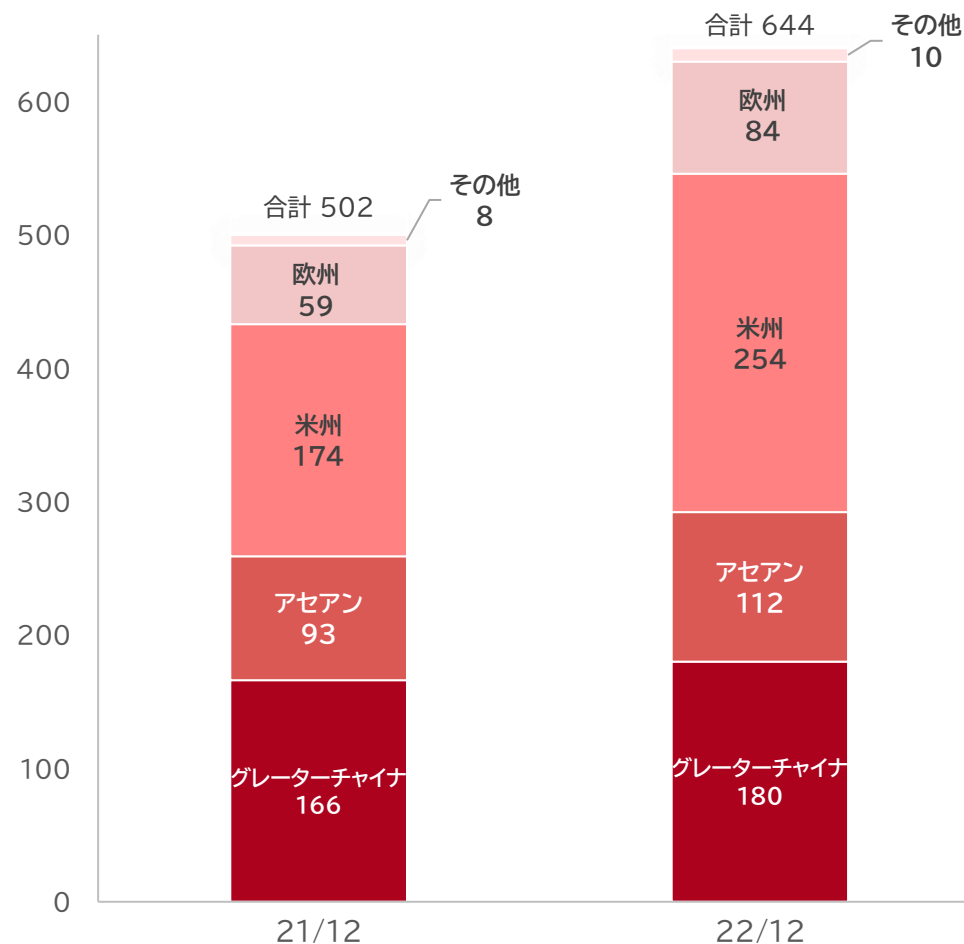
- ▶ 国内および海外ともに増益
- ▶ 国内外ともに半導体業界向けの原料・素材販売が増加したことにより増益
- ▶ 米州・欧州はPrinovaグループのビジネス拡大により大幅な増益
- ▶ グレーターチャイナはロックダウンの影響はあったが、円安による影響もあり増益

国内・海外売上総利益（億円）



※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます。

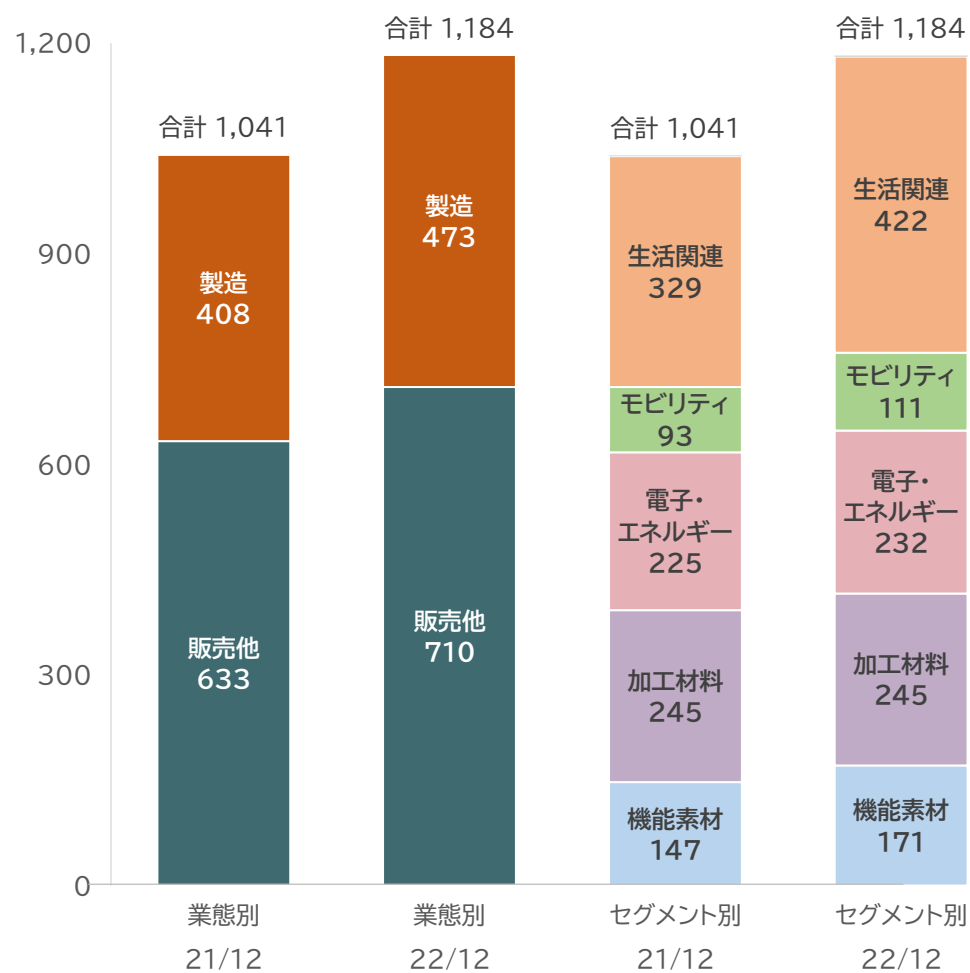
海外売上総利益の地域別内訳（億円）



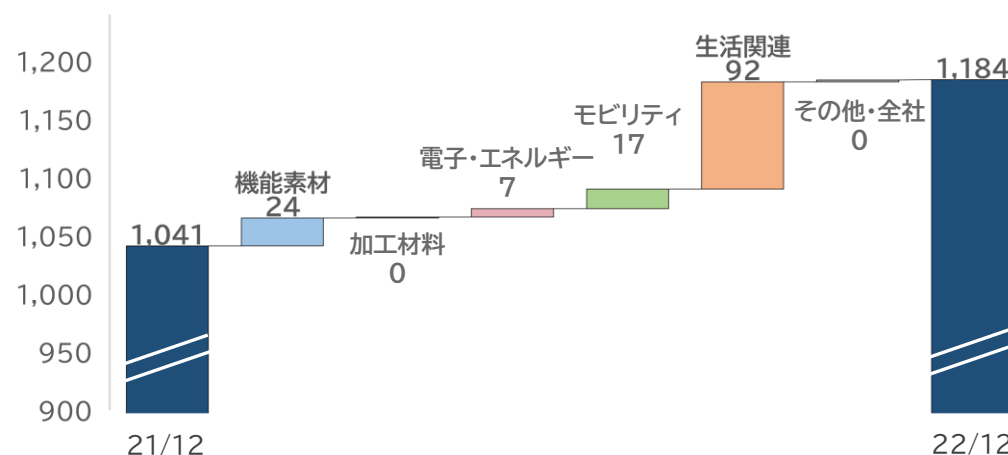
業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 機能素材は塗料・ウレタン原料、半導体関連等の電子業界向けの原料販売等、全般的に増加
- ▶ 加工材料は樹脂の販売数量の減少及び前年同期の市況高騰による利益率上昇の反動等による収益性の低下はあったが、円安の影響もあり横ばい
- ▶ 電子・エネルギーは半導体用途の材料販売が増加
- ▶ 生活関連はPrinovaグループにおける食品素材関連ビジネスが増加

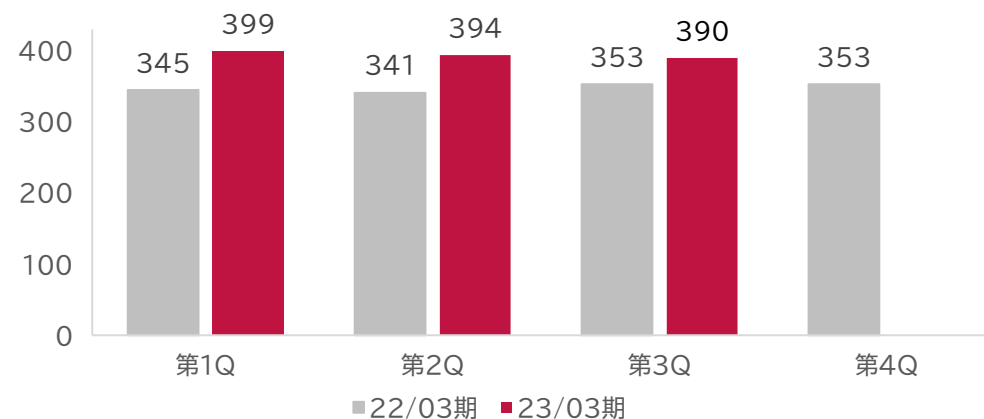
業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



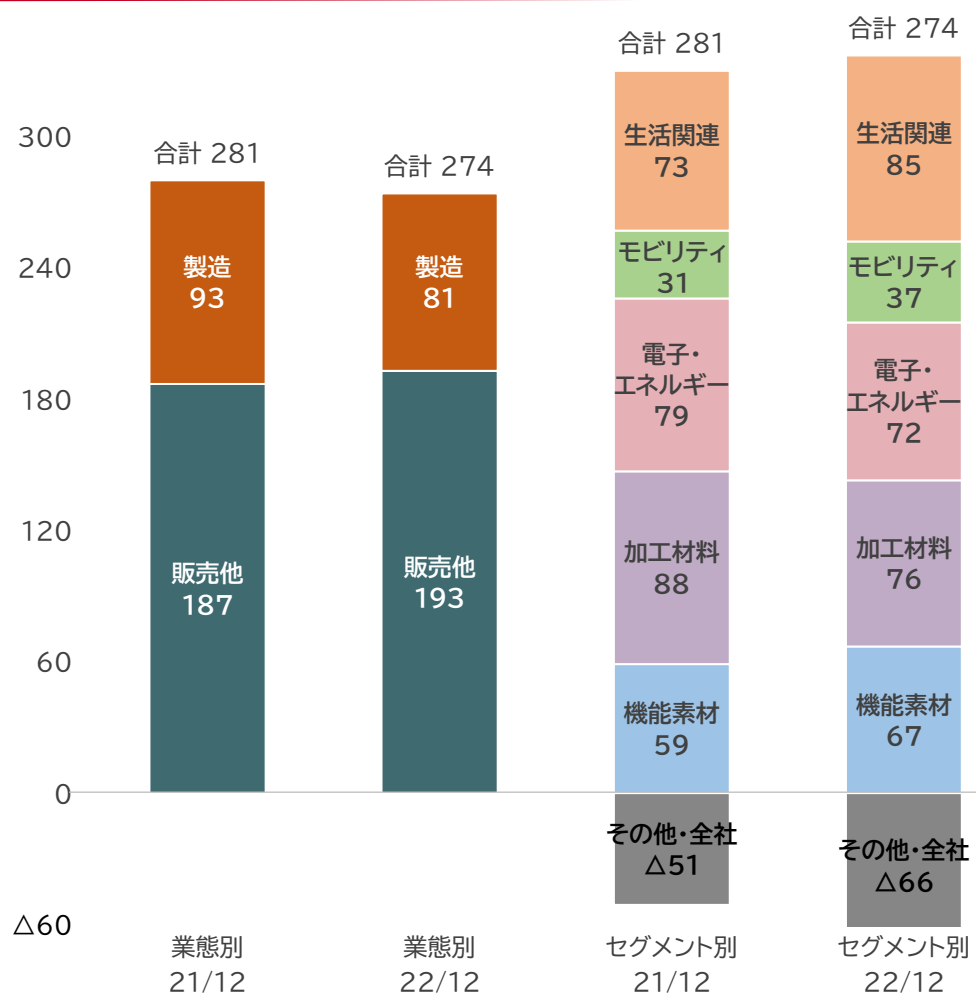
売上総利益 四半期推移 (億円)



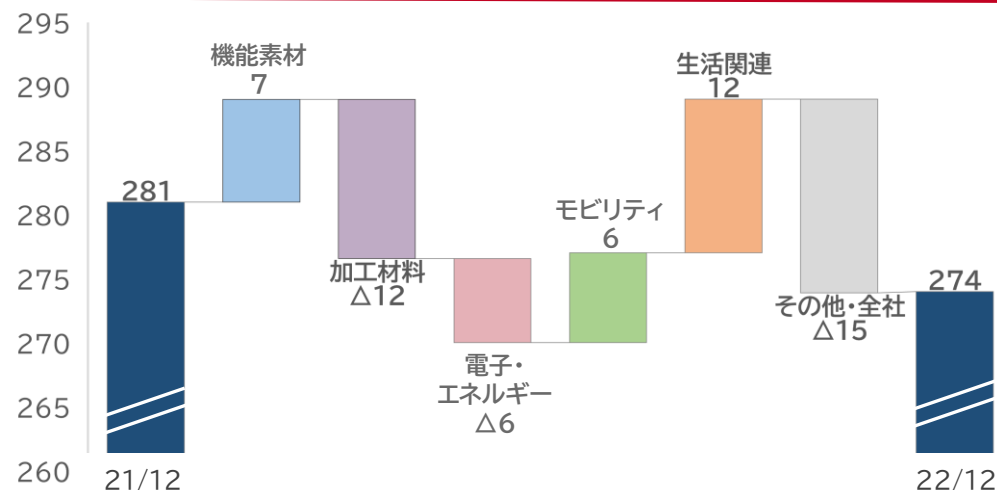
業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 物流コストの上昇や活動量増加に伴う販売費及び一般管理費の増加が売上総利益の増加を上回り、全体として減益
- ▶ 加工材料は前年同期の市況高騰による利益率上昇の反動や販売費及び一般管理費の増加等もあり、減益
- ▶ 生活関連は特にPrinovaグループの食品素材の販売事業が好調に推移し、増益
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施

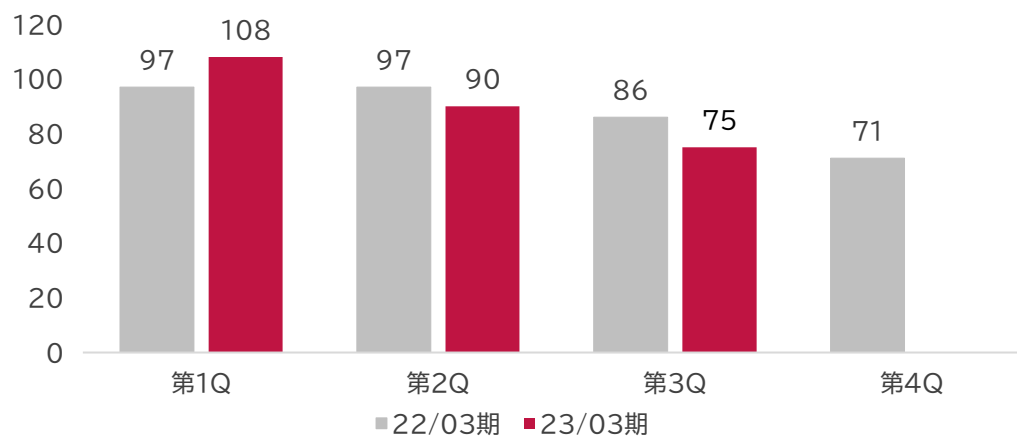
業態・セグメント別 営業利益 (億円)



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



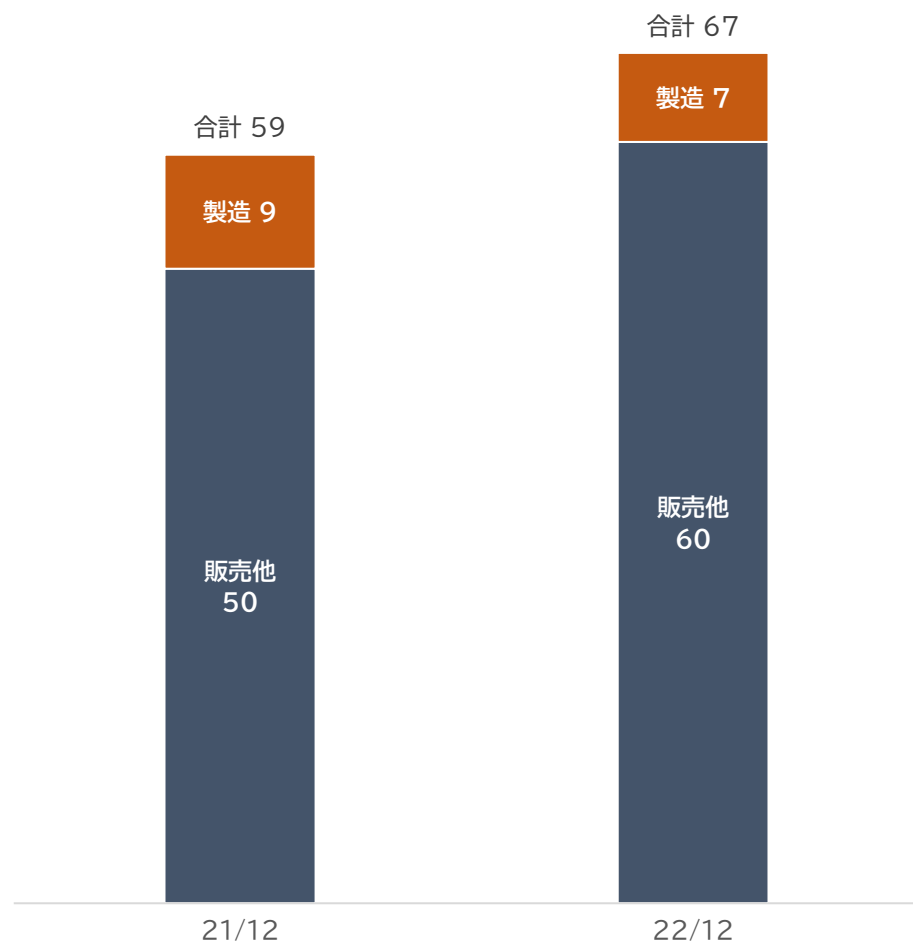
営業利益 四半期推移 (億円)



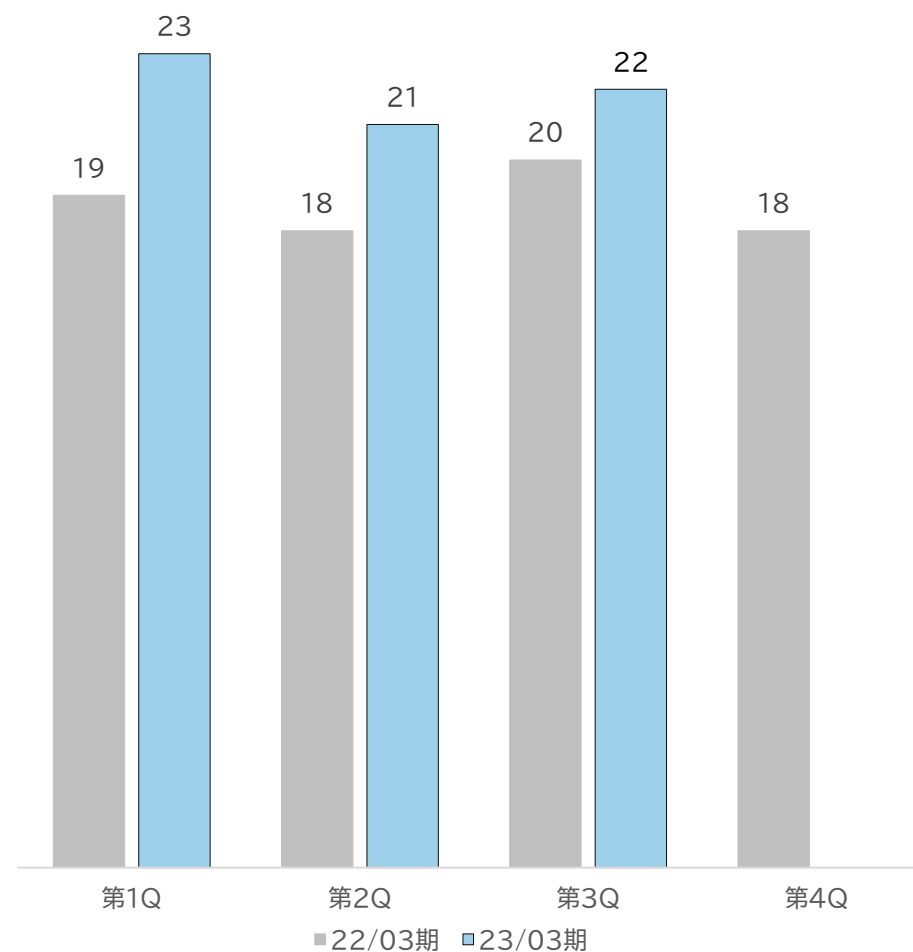
セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 市況の高騰や円安による影響もあり、自動車業界等向けの塗料・ウレタン原料の販売が増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けの原料販売、加工油剤・樹脂関連の原料販売が増加
- ▶ 全体としては好調を維持し、前年同期と比べて増益

業態別 営業利益 (億円)



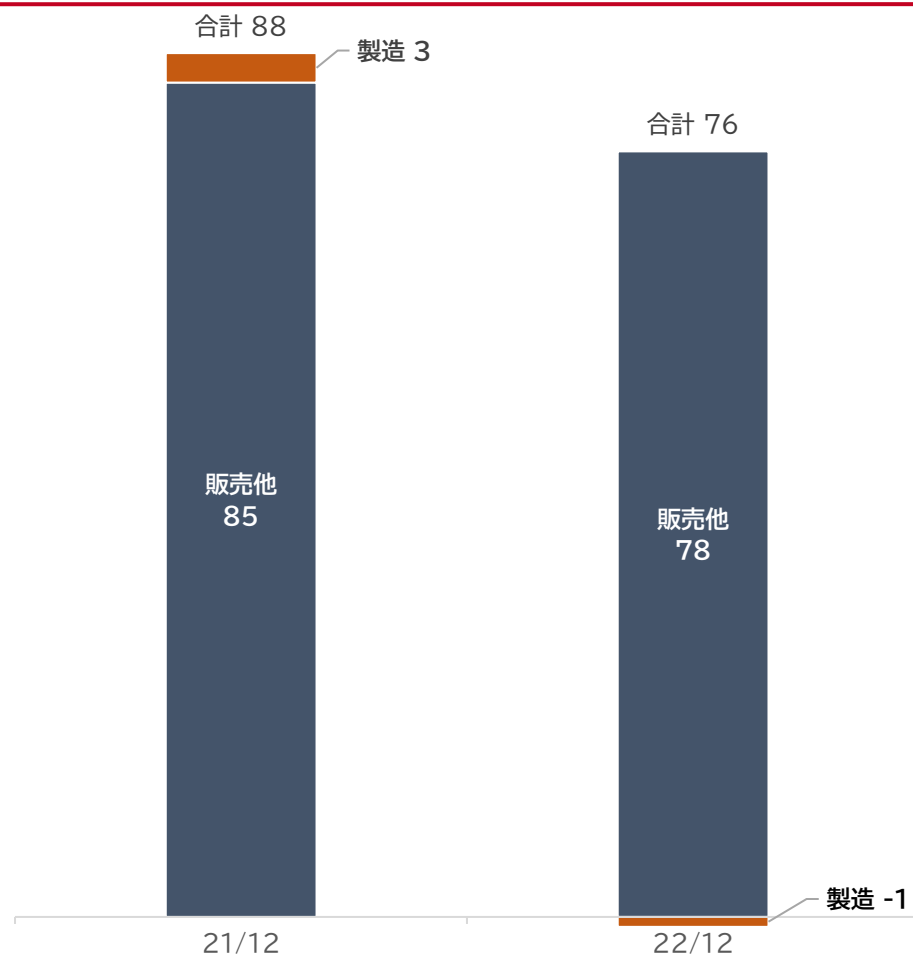
営業利益 四半期推移 (億円)



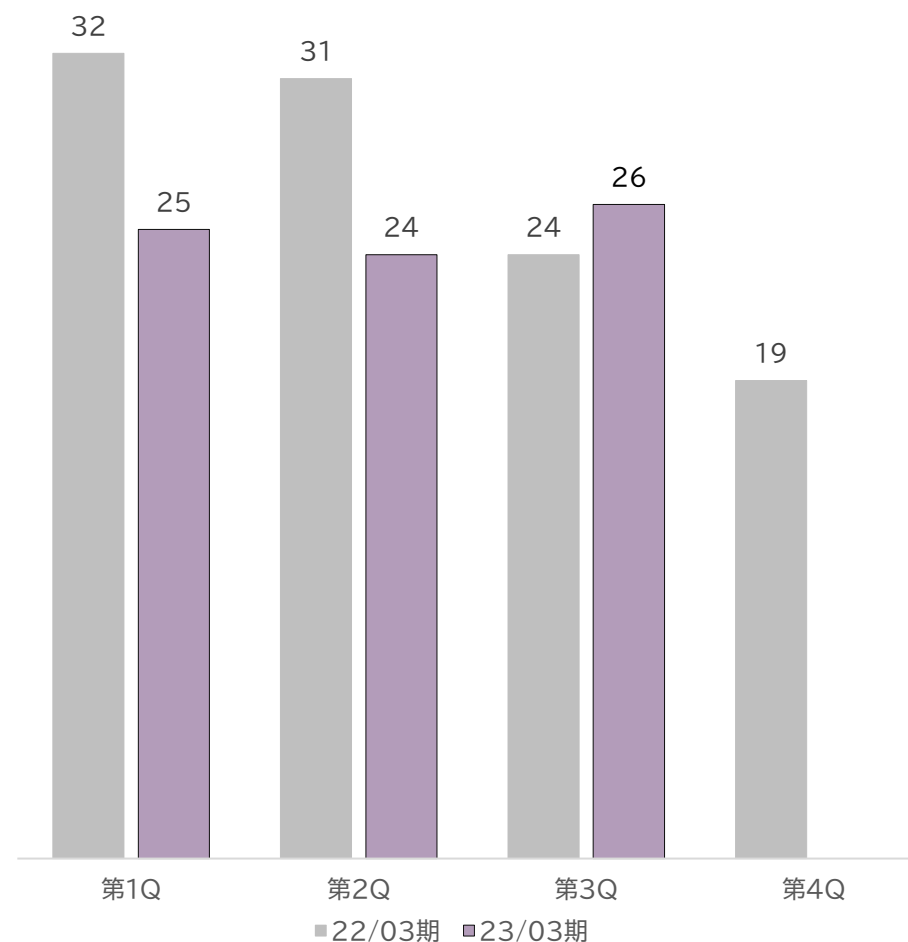
セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ 主にOA・ゲーム機器業界等への樹脂販売は円安による影響もあったが、前年同期の市況高騰による利益率上昇の反動等もあり収益性が低下
- ▶ 情報印刷関連材料の販売は製造ビジネスが引続き低調
- ▶ 樹脂販売、製造ビジネスにおける収益性の低下、販売費及び一般管理費の増加等により前年同期と比べて減益

業態別 営業利益 (億円)



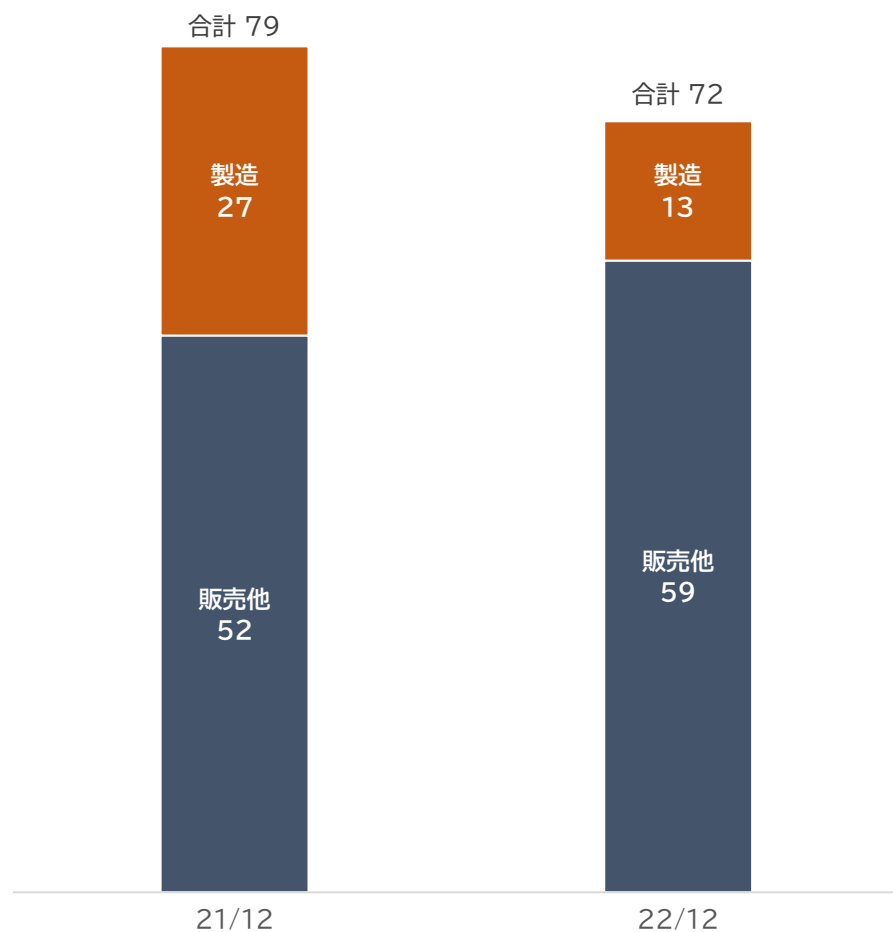
営業利益 四半期推移 (億円)



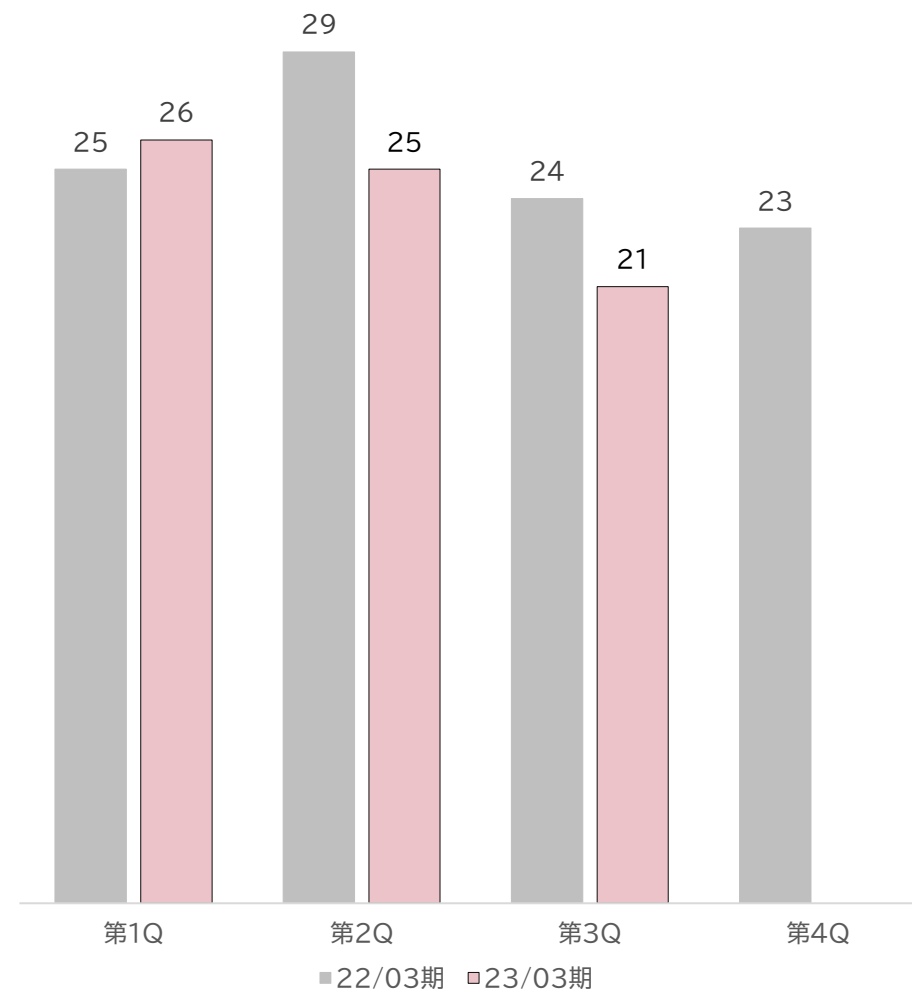
セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ 半導体用途向けの材料販売が増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連の販売は半導体用途向けは堅調だったが、モバイル機器向けが低調
- ▶ 製造部門のモバイル機器向け変性エポキシ樹脂関連の販売低調の影響が大きく、前年同期と比べて減益

業態別 営業利益 (億円)



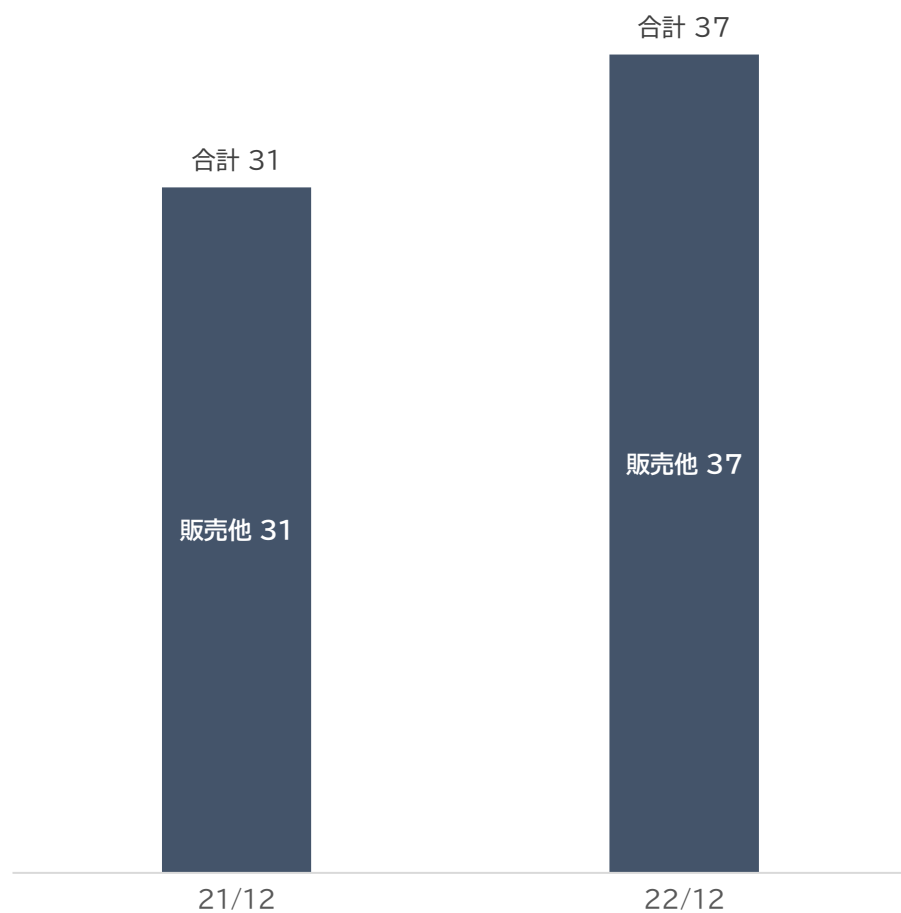
営業利益 四半期推移 (億円)



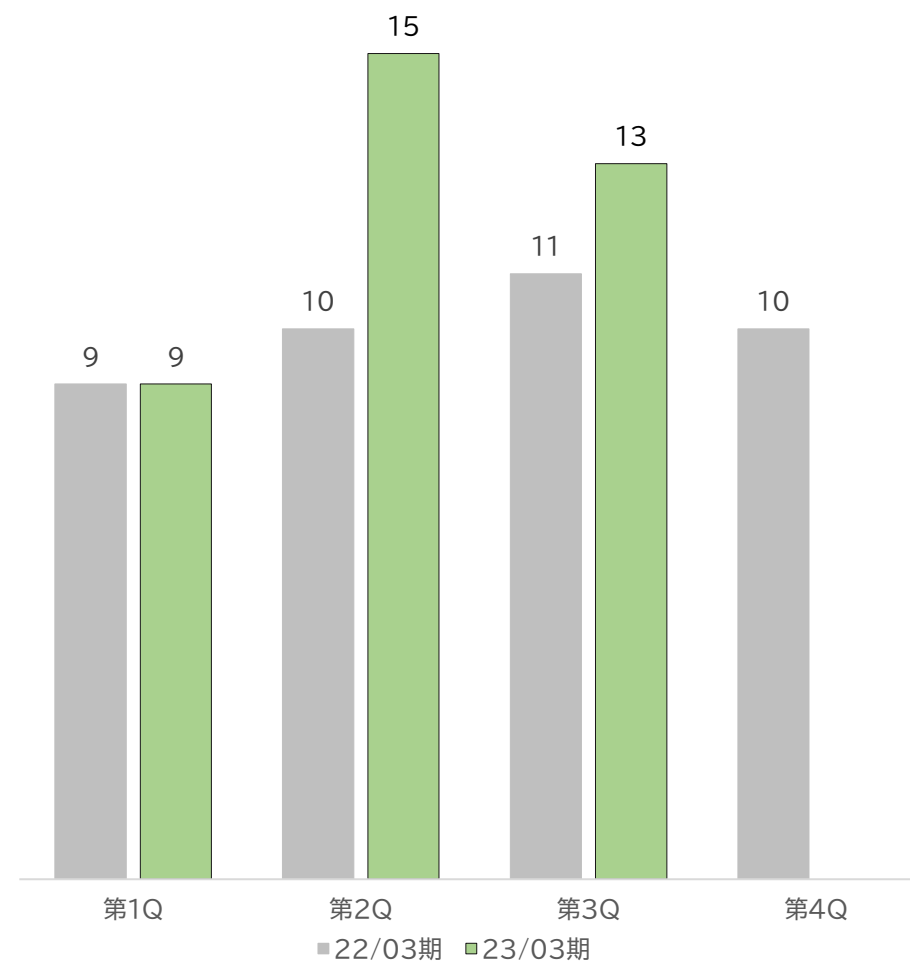
セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 樹脂の販売は自動車生産台数の増加に加え円安による影響等もあり、好調
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 全般的な販売好調を受けて、前年同期と比べて増益

業態別 営業利益 (億円)



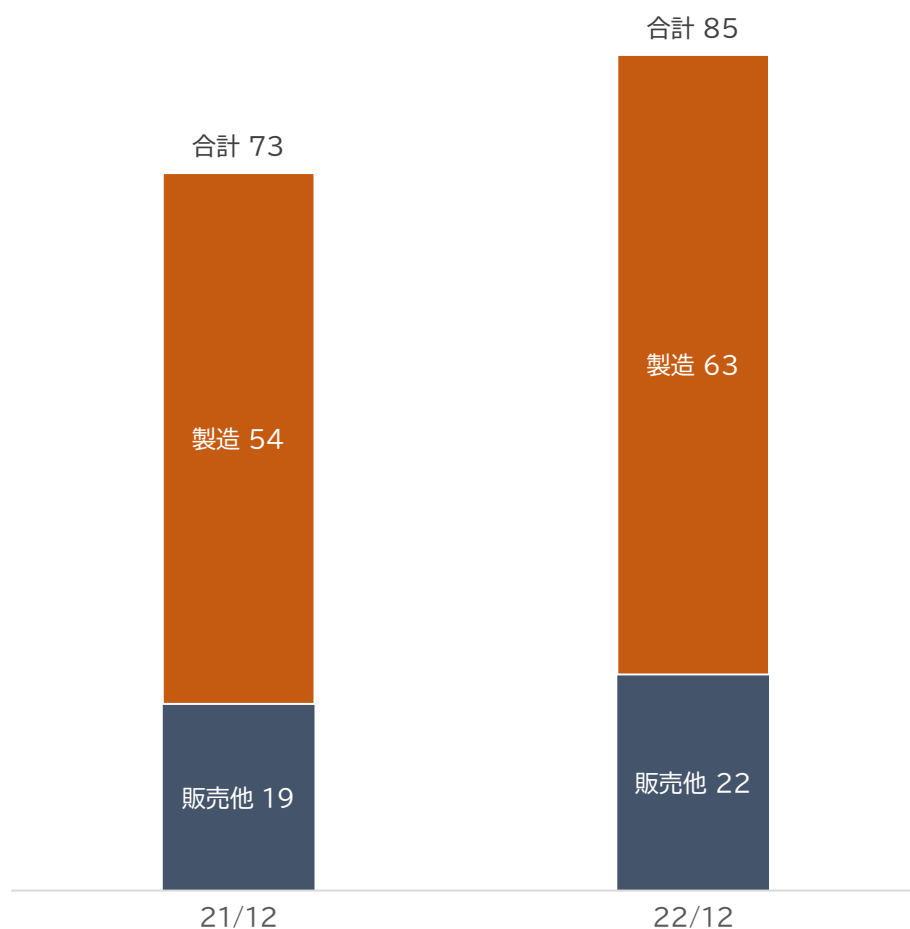
営業利益 四半期推移 (億円)



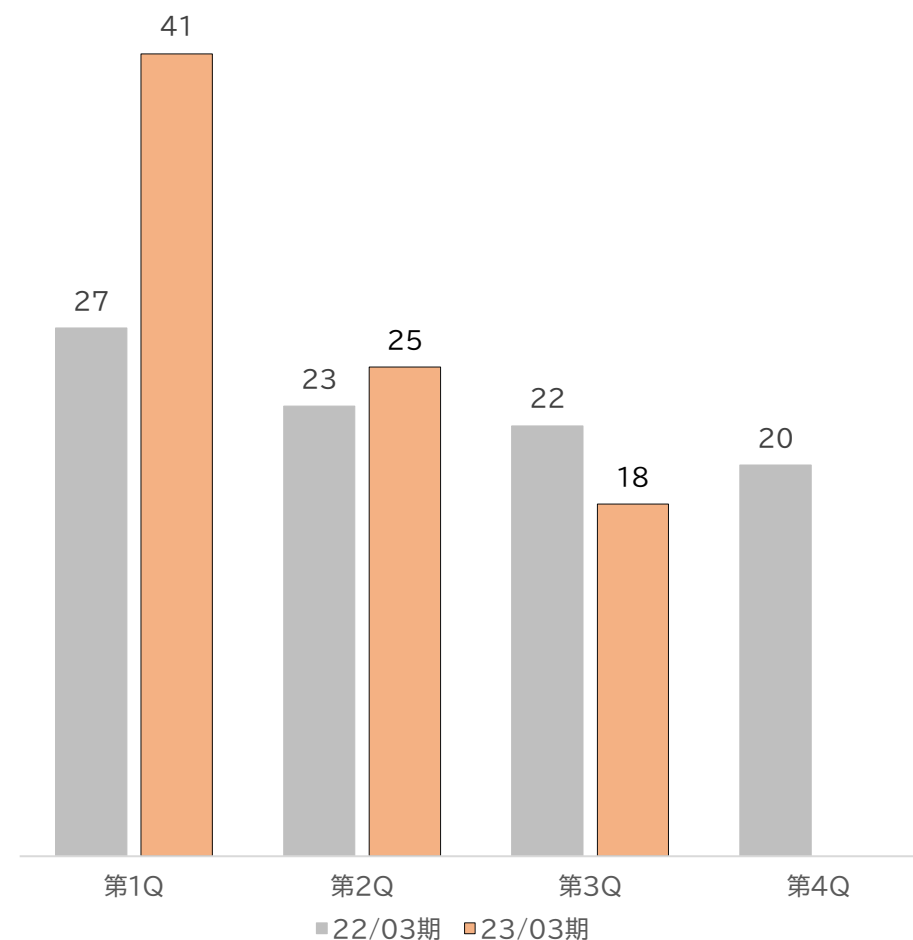
セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループの食品素材販売は、第1四半期が特に好調に推移し、第2四半期以降、需給の調整も見られるが全体として好調を維持
- ▶ Prinovaグループの製造加工ビジネスは新工場の立上げに伴うコスト増加等の影響もあり、収益性が低下
- ▶ 林原はトレハ®を中心とした食品素材の販売は増加したが、AA2G®を中心とした香粧品素材は主に海外での需要減少を受けて販売が減少
- ▶ 主にPrinovaグループの利益拡大により、前年同期と比べて、増益

業態別 営業利益（億円）



営業利益 四半期推移（億円）



主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：半導体向けは堅調も、モバイル機器向けの変性エポキシ樹脂関連の販売が低調であったこと等から、減益
- ▶ 林原：香粧品素材AA2G®の販売減少や、原料価格、エネルギー価格の高騰による食品素材トレハ®の収益性低下もあり、減益
- ▶ Prinovaグループ：製造加工ビジネスは新工場の立上げに伴うコストもあり収益性が低下したが、素材販売は依然として好調であり、増益

(単位:億円)

		21/12	22/12	増減額	前年同期比
ナガセケムテックス	売上高	221	195	△25	88%
	売上総利益	69	52	△16	76%
	営業利益	32	13	△19	41%
林原	売上高	200	212	11	106%
	売上総利益	81	79	△2	98%
	営業利益	34	29	△4	86%
	のれん等償却費	23	23	-	100%
	償却費負担後営業利益	11	6	△4	59%
Prinova グループ	売上高	857	1,453	596	169%
	売上総利益	160	242	82	152%
	営業利益	55	70	15	128%
	のれん等償却費	14	17	2	118%
	償却費負担後営業利益	40	53	12	132%

連結貸借対照表

- ▶ 流動資産：全般的な販売好調に伴い運転資本が増加し依然として高い水準だが、棚卸資産は2022年9月末を境にピークアウト
- ▶ 純資産：配当金の支払い・自己株式取得もあったが、四半期純利益の計上、円安による為替換算調整勘定の増加等もあり増加
- ▶ NET D/Eレシオ：運転資本増加による資金需要により有利子負債が増加し、0.40倍に上昇

(単位:億円)

	2022年3月末	2022年12月末	増減額	主な増減
流動資産	5,142	5,682	539	
（現金及び現金同等物）	542	439	△102	
（売掛債権）	2,898	3,240	341	
（棚卸資産）	1,575	1,826	251	
固定資産	2,254	2,332	77	
（投資有価証券）	756	711	△44	
資産の部合計	7,397	8,014	617	
流動負債	3,078	3,225	146	短期借入金・CP+258、1年内償還社債△100
（買掛債務）	1,490	1,587	97	
固定負債	767	916	148	社債+100
負債の部合計	3,846	4,141	295	
株主資本	2,988	3,068	80	
その他の包括利益累計額	454	694	240	為替換算調整勘定+266、有価証券評価差額△26
非支配株主持分	108	109	0	
純資産の部合計	3,550	3,872	321	
運転資本	2,983	3,479	495	
自己資本比率	46.5%	47.0%	0.5%	
NET D/Eレシオ	0.33	0.40	0.07	

2023年3月期 通期業績見通し(変更無し)

- ▶ 第2四半期決算発表時に通期見通し及びレート的前提を見直したが、第3四半期において見直しは実施せず
- ▶ 原油価格および関連するケミカル市況に加え、電力・ガス等のユーティリティコストは引続き高い水準を見込む
- ▶ モバイル機器の需要減少による変性エポキシ樹脂関連の販売減少は通期でも回復は見込めず
- ▶ 自動車関連事業は全体として堅調維持、Prinovaグループは景気後退等による減速、半導体関連は一部で調整局面へ
- ▶ 事業環境は不透明かつ厳しい状況が続くものの、引続き2期連続の最高益の更新を目指す

(単位:億円)

	22/03 実績	23/03 見通し	増減額	前期比
売上総利益	1,394	1,590	195	114%
販売費及び 一般管理費	1,042	1,210	167	116%
営業利益	352	380	27	108%
経常利益	364	390	25	107%
親会社株主に帰属する 当期純利益	259	285	25	110%
US\$レート (期中平均)	@ 112.4	@ 140.0		
RMBレート (期中平均)	@ 17.5	@ 20.0		

※レートが1円変動した場合の営業利益への影響額:US\$ 約1億円、RMB 約4億円

2023年3月期 セグメント別業績見通し(変更無し)

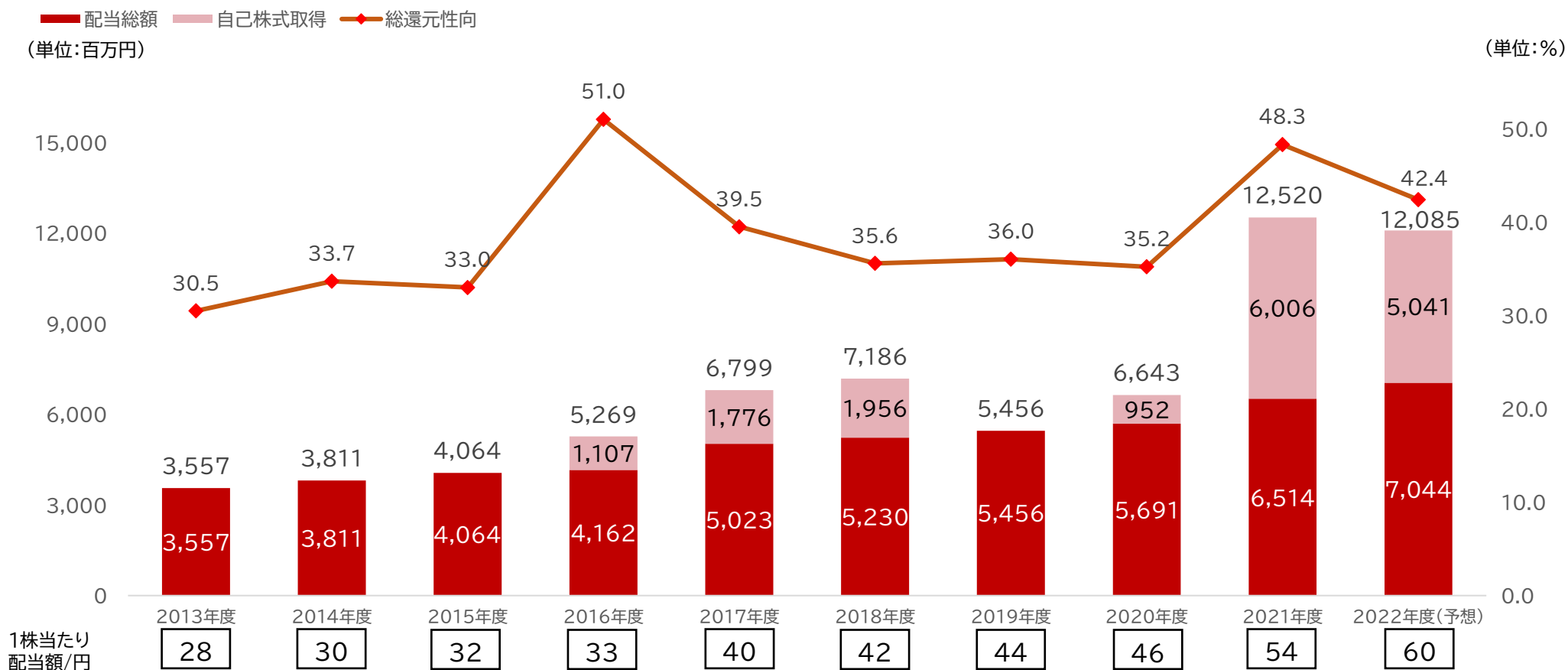
- ▶ 第2四半期決算発表時にセグメント利益の内訳を変更したが、第3四半期において見直しは実施せず
- ▶ 第2四半期想定よりも円高に推移しており、Prinovaグループを連結する生活関連を中心に為替による減益影響が生じる見込み
- ▶ 機能素材、モビリティは全体として好調を維持
- ▶ 電子・エネルギーはモバイル機器向けの変性エポキシ樹脂の販売不調に加えて、半導体関連ビジネスにおいても一部、調整局面へ
- ▶ 生活関連はPrinovaグループの労務費等の高騰による製造ビジネスの収益性低下、景気後退による市況の軟調化の影響により減速
- ▶ 事業環境は不透明かつ厳しく、事業によって濃淡はあるが、全体として引続き2期連続の最高益の更新を目指す

(単位:億円)

		22/03 実績	23/03 見通し (第2四半期 修正後)	増減額	前期比
機能素材	売上総利益	198	229	30	116%
	営業利益	78	95	16	121%
加工材料	売上総利益	323	330	6	102%
	営業利益	108	105	△3	97%
電子・エネルギー	売上総利益	297	310	12	104%
	営業利益	102	103	0	100%
モビリティ	売上総利益	127	149	21	117%
	営業利益	41	55	13	133%
生活関連	売上総利益	447	571	123	128%
	営業利益	94	117	22	124%
その他・全社	売上総利益	1	1	△0	84%
	営業利益	△72	△95	△22	—
連結合計	売上総利益	1,394	1,590	195	114%
	営業利益	352	380	27	108%

株主還元状況

- ▶ 2022年度の1株当たり配当金は中間30円、期末30円の年間60円を予定(13期連続増配見通し)
- ▶ 2022年2月に決議した60億円の自己株式取得は予定通り進捗
(2022年12月末時点での取得累計額55億円)



※ 2022年度の期末配当金は、2023年6月開催予定の第108回定時株主総会に附議予定です。



<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2023年2月8日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。